遊び行為の時期的変化からみた保育室におけるコーナーの利用特性

子どもの発達に伴うコーナー設定に関する研究 その1

THE USE CHARACTERISTICS OF THE CORNER IN THE NURSERY ROOM
FROM THE VIEW POINT OF THE SEASONAL CHANGES OF THE PLAY ACT

A study on corner planning according to the child's development 1

西本雅人***, 河合慎介**, 今井正次*

Masato NISHIMOTO, Shinsuke KAWAI and Shoji IMAI

A nursery room is divided into some places by the corner, and is used for multiple purposes. It is important to clarify relation of a corner and change of a way which plays. This paper aimed at the following thing. (1)The use characteristics of the corners are clarified by understanding children's play act in the corner. (2)Seasonal changes of children's play act is clarified. Behavior observation investigation according to video photography was conducted at four nursery room of two kindergartens. The play act under free nursing was checked every 2.5 minutes. Results are described below. #1 "Manufacture play" was a play act most performed in common with each age. On the whole, each corner was use appropriate for the purpose. #2 A corner serves as an exclusive use place. However, the play act is diversified by prolonged use. #3 From use experience of the set-up fixed corner, the child can make various corners variably gradually.

Keywords : *Free nursing, Play act, Seasonal changes, Corner planning, Nursery room*

自由保育, 遊び行為, 時期的変化, コーナー設定, 保育室

1. はじめに

自由保育を行う幼稚園・保育園^{注1)}では、保育室はコーナーでいくつかの場所に分けられ、多目的に利用されている。保育室にコーナーを設定するねらいとして、様々な場所を用意すること、「どこでどんな遊びを行うのか」を子どもに視覚的に伝えることができることが挙げられる。子どもはそれらの中から遊びたいコーナーを自発的に選ぶことができる。一つのコーナーで集中して遊ぶことや複数のコーナーを使い分けて遊ぶことなど、実に多様な遊びが行われている。また、コーナーは設定の自由度が高いため、時間帯によって「遊び」と「生活」の場所が作り変えられたり、子どもの成長に伴って設定が変えられる。一方、コーナー設定^{注2)}には理論的な枠組みがないため、保育者が経験則で設定を行わざるを得ないこと、園によってコーナー設定の程度が異なることなどの課題も挙げられる。

保育室を分節的に利用することは重要であると保育学・建築学両面の既往研究で指摘されている。無籐ら¹⁾は園環境の意味の視点から園の環境は様々な形に区切られていなければならないと述べている。北浦²⁻⁴⁾は夜間保育所にも同様にコーナーが設定されており、子ども主導型のセッティングであると述べている。コーナーの使われ方を論じた研究には、井本らによる保育空間のセッティングと子どもの行為に関する研究⁵⁾、山田らによる自由遊びにおける子どもの遊

び方と規模に関する研究⁶⁾、細谷らによる異年齢保育における空間構成と子どもの交流に関する研究⁷⁾がある。拙者らは既報⁸⁾にて、保育者は子どもの成長に伴って一年の間にコーナー設定の仕方を変えていることを明らかにした。いずれもコーナーでの遊びを統計的に分析したものが多く、コーナーでの子どもの遊び方で論じていない、あるいは時期による子どもの遊びの変化までは論じていない。子どもはコーナーを利用して多様な遊びを展開しているため、遊び方の変化とコーナーの関わりを明らかにすることが必要である。

2. 研究の目的と方法

2-1 研究の目的

本報は、①コーナーにおける子どもの遊び行為を捉えることにより、コーナーの利用特性を明らかにすること、②子どもの遊び行為の時期的な変化を明らかにすること、を目的とする。

また本報では、総称的な意味の「遊び」に対して、ある時間断面で捉えた子どもが主体的に取り組む目的的な遊びの場面を「遊び行為」と呼ぶことにする。

2-2 研究の方法

研究は、以下の手順で進める。

(1) コーナーを設定している2園4保育室にて、自由保育中の子ども

* 三重大学 名誉教授・工博

** 京都府立大学大学院生命環境科学研究科
准教授・博士(工学)

*** 石川工業高等専門学校建築学科 助教・博士(工学)

Prof. Emeritus, Mie University, Dr. Eng.

Assoc. Prof., Graduate School of Life and Environmental Sciences, Kyoto Prefectural University, Dr. Eng.

Research Assoc., Dept. of Architecture, Ishikawa National College of Technology, Dr. Eng.

表 1 対象施設の概要

園	M園	T園
所在地	三重県津市	三重県津市
敷地・園舎面積	6000 m ² ・930 m ² (RC 造 1F)	2080 m ² ・550 m ² (RC 造 1F)
保育室編成	A うめ組/5歳 B たんぽぽ組/4歳 C ちゅうりっぷ組/3歳	D うさぎ組/3歳

- の遊び行為を2.5分おきのビデオ撮影によって把握する。
- (2) 保育分野における遊びの分類を参考にしながら、実態に基づき遊び行為を分類する。
- (3) コーナー・場所別の遊び行為の割合を分析し、時期による利用実態の変化を明らかにする。
- (4) 保育室・テラスにおける遊び行為の分布から、遊び行為の広がり方を捉え、時期の観点から比較検討する。

2-3 調査の方法

調査はビデオ撮影による行動観察調査を行った。対象保育室はT園とM園の2園4保育室であり(表1)、調査期間は2005年9月～2006年3月であった。ビデオ撮影の間隔は2.5分おき、1回の撮影時間は約30秒、撮影場所は保育室内とテラスであった。調査期間は、T園が3歳児の1保育室を1回/月(計6日間)、M園が3・4・5歳児の各1保育室を9・12・1・2月(計12日間)であった(表2)。3歳児は4・5歳児に比べ1保育室当たりの人数が少ないため2園での調査とした。

3. 遊び行為の分類

3-1 保育における遊び行為の位置づけ

現在、遊び行為は「子ども自ら環境とかかわり生み出す自発的な活動(行為)」として捉えられている⁹⁾。この捉え方は、子どもの遊び行為とは「保育者が子どもにさせる」ことではなく、「子どもが自発的に取り組む」ことを意味している。一方、子どもが様々な経験を行うために必要に応じて保育者が投げかける「課題遊び」^{注3)}もあり、遊び行為を誘発するとも考えられる。よって、本報では「課題遊び」も含めて子どもの遊び行為とする。

3-2 既往研究における子どもの遊び行為の分類

遊び行為の分類は保育学、発達心理学、社会学、建築学などの分野で行われている。R. カイヨウ¹⁰⁾は社会学の観点から、遊び行為を「競争」「偶然」「模擬」「眩暈」に分類した。J. ピアジェ¹¹⁾は発達心理学の観点から、「機能的遊び」「象徴遊び」「ルールある遊び」に分類した。M.D. パーテン¹²⁾は、遊びの社会性によって、「何もしない活動」「傍観者の活動」「1人遊び」「並行遊び」「連合遊び」「協同遊び」に分類した。山下俊郎¹³⁾は、C. ビューラーの「遊びとは機能の快をもたらす活動である」という定義に基づき、幼児心理学の観点から「感覚遊び」「運動遊び」「模倣・創造遊び」「受容遊び」「構成遊び」に分類した。仙田満¹²⁾は建築学の観点から、主に屋外での遊びを対象に「物理的環境内での遊び」「人的環境内での遊び」に分類した。

3-3 遊び行為の分類

山下による分類を参考に、自由保育中の保育室・テラスでみられた子どもの遊び行為を、6グループ、11種類に分類した(表3)。分類の手順を以下に記す。①まず遊び行為を静的・動的の2つに分け

表 2 調査の概要

対象保育室	調査日	天気	観察時間帯	観察時間 ^{*1} (分)	撮影回数 ^{*2} (回)	人数 ^{*3} (人)
T園	うさぎ組(3歳児)	10/14	晴	8:45.0～10:12.5	87.5	35
		11/09	晴	8:50.0～10:37.5	107.5	43
		12/07	晴	8:50.0～10:42.5	112.5	45
		01/20	晴	8:42.5～10:37.5	115.0	46
		02/09	晴	8:40.0～10:32.5	112.5	45
		03/15	晴	8:45.0～10:32.5	107.5	43
		小計	—	—	642.5	257
M園	ちゅうりっぷ組(3歳児)	09/28	晴	8:45.0～10:32.5	107.5	43
		12/02	晴	8:40.0～9:57.5	77.5	31
		01/25	晴	8:35.0～10:22.5	107.5	43
		03/14	晴	8:32.5～10:42.5	130.0	52
		小計	—	—	422.5	169
	たんぽぽ組(4歳児)	09/27	晴	8:37.5～10:40.0	122.5	49
		12/18	晴	8:35.0～10:42.5	127.5	51
		01/31	雨	8:37.5～10:42.5	125.0	50
		02/23	晴	8:37.5～10:30.0	112.5	45
		小計	—	—	487.5	126
	うめ組(5歳児)	09/26	晴	8:35.0～10:32.5	117.5	47
		11/28	晴	8:35.0～11:02.5	147.5	59
		01/23	晴	8:37.5～11:05.0	147.5	59
		02/22	晴	8:35.0～10:45.0	100.0	40
		小計	—	—	512.5	205
	合計	—	—	—	2065	826
						440

*1 観察時間：自由保育中の遊びを観察した時間
*2 撮影回数：観察時間/2.5分(自由保育中に2.5分おきに撮影した回数)
*3 人数：調査日に園に来た子どもと保育者の人数
休園する子どもがいるため、調査日による人数は異なる

表 3 遊び行為の分類

遊び行為の分類		遊び行為の内容	山下分類
ものを作る遊び	製作遊び	紙や廃材などを使っているいろいろな形・ものを作る遊び。例 紙でお化けを作る、空き箱でくじ引きの箱を作る、空き箱で武器を作る、紙で魚を作る、折り紙をする等	構成遊び
	造形遊び	紙以外のブロック、粘土などを組み合わせたりしていろいろな形・ものを作る遊び。あるものを並べたり集めたりする収集遊び、お絵かきも含める。例 絵本を作る、割り箸と綿で綿菓子を作る、泥団子を作る等	構成遊び
ものを使う遊び	模倣遊び	日常生活のできごとを真似て楽しむ遊び。代表的な遊びはままごと遊び、他にもお医者さんごっこ、お店屋さんごっこなどのごっこ遊び、人形・ぬいぐるみを使った遊び、動物の真似がある。それぞれの役割を演じる。	模倣・想像遊び
	受容遊び	絵本を読む、音楽を聴く、虫や花を観察するなどものを鑑賞する遊び。また、音を楽しむということから音を出す遊びもここに含める。字が読めない場合は保育者に読んでもらったり、絵を楽しむ。	受容遊び
	象徴遊び	もののあるものに見立てて楽しむ遊び。紙の棒を剣に見立てたり、紙を丸めたものを爆弾に見立てたりする。ミニカーで遊ぶことも含める。	—
	ゲーム遊び	すごろくやパズルなど、ある決められたルールにそって楽しむ遊び。市販のものが多いが、保育者や子どもが作った手作りのものもある。例 すごろく、あやとり等	—
	場所を作る遊び	大型積み木やついたてなどを使って場所を構築する遊び。大型積み木を使ってあるもの(飛行機やロボット等)を作る遊び。また積み木を積み上げたり、ついたてを並べたりと、大きなものを使った構築遊びも含める。	構成遊び
場所を使う遊び	場所遊び	子どもが大型積み木やついたてなどを使って作り出した場所を滑り台など何かに見立てて楽しむ遊び。	構成遊び
	運動遊び	体を動かして楽しむ遊び。闘いごっこや追いかけっこが多く、他にはじゃれ合う、ボールを使った遊び等がある。	運動遊び
保育者が主体となる遊び	課題遊び	自由保育中に保育者が子どもになげかけてテーマにそった製作をする。季節や行事にちなんだものも多く、ある一定期間(一週間など)で全員が取り組む。例 クリスマスツリー作り、ひな人形作り、雪だるま作り等	—
その他		ものを探す、ものを持ち込むなどの遊びとは直接関係しない行為、ものをみる・みせるなど。	—

た。静的な遊び行為はままごとや絵本を読むなどの遊具を使った遊びが中心となることから「ものに関する遊び」として、動的な遊び行為はかけっこや家づくりなどあるまとまった場所を必要とすることから「場所に関する遊び」として位置づけた。②保育的な観点から、子どもは新しくものや場所をつくり出すことが期待されている。そのため、次にものに関する遊びは、製作・造形など遊具を自分たちでつくり出す「ものを作る遊び」とままごとや絵本を読むなど元からある遊具を使う「ものを使う遊び」に分けた。③同様に、場所に関する遊びも「場所を作る遊び」と「場所を使う遊び」に分けた。④自由保育中には、保育者があるテーマをもって投げかける遊びも行われている。この遊びを「課題遊び」とした。⑤以上の遊びの系統に「その他の遊び」を含め、さらに用いる遊具や場所の種類によって細分化した。

4. 遊び行為の実態とコーナーとの関係

4-1 遊び行為数

ビデオ撮影観察調査で得られたデータの内、分析対象は遊び行為とする。この遊び行為は、2.5分おきのビデオ撮影で映っている場面中の子ども一人ひとりの行為を全て抽出したものであり、複数の人数がいれば人数分の行為が抽出される。抽出された遊び行為は、9353行為である。この行為数は観察時間や保育室内の子ども数にも影響されるため、3歳児に対し4・5歳児の1日あたりの行為数は多い。しかし、撮影あたりの行為数には年齢による傾向は見られない。

自由保育時間中であっても子どもはずっと遊んでいるわけでない。靴をしまう、お帳面にシールを貼る、靴を履き替えるなどの登園から遊び出すまでに必要な行為、またボーっとする、歩く（移動）など目的のはっきりしない行為を遊び以外の行為とする。全体では約8割が遊び行為であるが、3歳児は登園してから遊び出すまで時間が

表4 ビデオ観察調査の概要

	対象保育室 / 年齢	調査 日数	観察 時間 (分)	撮影 回数 (回)	人数 (人)	滞在 人数 ＝ 行為数 (行為)	撮影あ たりの 行為数 (行為 / 回)	遊び 行為 数 (行為)	遊び 以外の 行為数 (行為)	遊び 行為の 割合 (%)
T	うさぎ組 / 3	6	642.5	257	93	2469	9.6	1762	707	71
M 園	ちゅうりっぷ組 / 3	4	422.5	169	86	2478	14.7	1779	699	72
	たんぽぽ組 / 4	4	487.5	195	136	3432	17.6	2939	493	86
	うめ組 / 5	4	512.5	205	125	3295	16.1	2873	422	87
合計		18	2065	826	440	11674	14.1	9353	2321	80

表5 年齢別にみる遊び行為数と割合

	製作	造形	模倣	受容	象徴	ゲーム	構築	場所	運動	課題	他	計
うさぎ組	396	186	287	45	63	53	120	17	304	97	194	1762
	23%	11%	16%	3%	4%	3%	7%	1%	17%	6%	11%	100%
ちゅうりっぷ組	560	133	279	91	196		58	1	292		169	1779
	32%	8%	16%	5%	11%		3%	0%	16%		10%	100%
たんぽぽ組	824	378	114	260	158	25	63	17	362	438	300	2939
	28%	13%	4%	9%	5%	1%	2%	1%	12%	15%	10%	100%
うめ組	650	14	246	116	65	170	188	152	568	399	305	2873
	23%	1%	9%	4%	2%	6%	7%	5%	20%	14%	11%	100%
計	2430	711	926	512	482	248	429	187	1526	934	968	9353
	26%	8%	10%	6%	5%	3%	5%	2%	16%	10%	10%	100%

注) 割合は「各遊び行為数 / 全遊び行為数」。調査日で遊び行為数は異なるが、全ての調査日における遊びの行為数を単純に合計。行為割合が10%以上の遊び行為をグレーで表示。

かかることから、遊び行為の割合は約7割と低めである(表4)。

4-2 保育室・テラスにみられる遊び行為の割合

全体を概観すると、最も多い遊び行為は「製作遊び」であり、全体の約1/4(26%)を占める(表5)。次に「運動遊び」(16%)、「模倣遊び」(10%)、「課題遊び」(10%)、「その他の遊び」(10%)が続く。

「製作遊び」はどの年齢でも割合が高い。「模倣遊び」は3歳児での割合が高いが(16%)、4・5歳児での割合はそれほど高くなく、年齢の低い子どもによく見られる遊び行為であると言える。同様に「造形遊び」、「象徴遊び」も年齢の低い子どもに、反対に「課題遊び」

表6 コーナーの専用・兼用的な利用の時間的な変化

コーナー・場所		うさぎ組 / T・3						ちゅうりっぷ組 / M・3				たんぽぽ組 / M・4				うめ組 / M・5				調査日数			凡例	
		10	11	12	1	2	3	9	12	1	3	9	12	1	3	9	12	1	3	専	兼	計	製：製作遊び 造：造形遊び 模：模倣遊び 受：受容遊び ゲ：ゲーム遊び 構：構築遊び 場：場所遊び 運：運動遊び 課：課題遊び 他：その他の遊び	4 製 82 専用のな利用。左下文字「製」は遊び行為の種類、右下数字「82」・黒色はコーナー・場所におけるその遊びの割合、上数字「4」は残りの遊びの種類の数を示す。上数字の色の相違はレイアウト上の問題であり同じ意味。
コーナー	製作	1 製 88	4	6	5 製 72	5	4 製 69	4	4	4	3	3	4	5	6	5	4	5	4	14	4	18		
	ままごと	2	3	4	2	3	4	2	1	2	6	5	63	3	製 60	製 62	製 63	3	製 70	製 82	13	5	18	
	絵本	1 造 93	2 造 73	4	3	4	1	3	69	象 100	なし	受 100	なし	2	1	3	3	1	5	受 87	13	5	18	
	ブロック							3 造 91	5	4	5									1	3	4		
	ごっこ							2	1	8	2	4								2	3	5		
	折り紙		4 製 81		1	製 96														2	0	2		
	粘土	1 造 91	1 造 86	模 100								1 造 80								4	0	4		
	音楽		受 100																	1	0	1		
	ゲーム				2 ゲ 71		3 ゲ 63										3 ゲ 93			3	0	3		
	課題							1 課 98							2 課 64	2 課 81				3	0	3		
編み物													5						0	1	1			
家					6	9													0	2	2			
その場の その他	保育室内	5	6	3 運 69	6	5 運 62	6 運 60	7	5	7	7	5	9	10	9	7	6	9	7 運 61	4	14	18		
	テラス内	3		1		1	1	3	2	2	4	5	3	4	5	5	5	1 運 80	1 運 85	11	7	18		

注) 調査日別に各コーナーで専用・兼用のどちらの利用がされているのかを示す。専用の利用がされている場合は特徴的な(行為割合が60%以上の)遊び行為の種類も表記している。表の右端には専用・兼用の利用がされた回数を示している。絵本コーナーでは全く遊びがされなかった日が2回あったため、その日については「なし」と表記している。また、想定された遊び行為とは、コーナーを設定する際に保育者が想定した遊び行為のことを指し、それに関連したコーナーの名称がつけられる。

は年齢の高い子によく見られる遊び行為である。「課題遊び」は保育者が主体となり、年齢が高くなるほどこの遊び行為が多くなる傾向がある。5歳児では「場所遊び」、「構築遊び」が並んで若干高く、自分たちで場所を作ってそこで遊ぶことが多くなるとされる。

4-3 コーナー・場所別の遊び行為の割合

各保育室で共通して常に設定されているコーナーは【製作・ままごと・絵本コーナー】であり、全18日の調査中18回設定されている。その他のコーナーは設定される日数が異なる（表6）。

また保育室では、コーナーの他に広く空けられたスペースやコーナー間の隙間のようなスペースなど、コーナー以外の場所でも子どもは遊ぶことがある。コーナーを研究対象としているものの、対象空間の遊び行為の総体を見る必要があるため、コーナー以外の場所を「保育室内のその他の場所」、「テラス内のその他の場所」として扱い、コーナーと同様に遊び行為の割合を捉える。

例として、3月時調査のうさぎ組（T園3歳児）の保育室で、自由保育中に見られたコーナー・場所別の遊び行為の割合を考察する。【製作コーナー】では、「製作遊び」がよく行われ69%を占めている。これに対し、【ままごとコーナー】での行為は、「模倣遊び」、「象徴遊び」、「構築遊び」、「その他の遊び」であり、いずれも60%未満で比較的多数の遊び行為が見られる。このように遊び行為の割合からコーナーの利用のされ方を捉えると、ある特定の遊び行為を専用的に行っている「専用的な利用」と、いろいろな遊び行為を一様に行っている「兼用的な利用」という2つに整理できる。なお本報は、この2つの利用を区別する判断基準として、各コーナー・場所の行為割合の中で「過半に優位性が判断できるという理由から最大行為割合が60%以上の場合は、専用的に利用している」とした。

4-4 コーナーの専用・兼用的な利用の時期的な変化

専用・兼用という観点から、時期によるコーナー利用の相違について見る（表6）。全体的に専用的な利用が多く見られることから、子どもは概ね各コーナーで、ある特定の遊び行為を行うことが多いと言える。つまりコーナー設定することにより、遊び行為および遊び行為を行う場所を区分できていると言える。

各保育室で共通して設定されているコーナーは【製作・ままごと・絵本コーナー】である。その中で【ままごと・絵本コーナー】は4・5歳児と年齢が上がるにつれ兼用的に利用されるようになる。【製作コーナー】は、年齢が低いうさぎ組（T園3歳児）、たんぽぽ組（M園4歳児）では、兼用的に利用されている。これらの保育室では「課題遊び」を【製作コーナー】で行っており、その影響で「製作遊び」と「課題遊び」がともに行われている。

また、ちゅうりっぷ組（M園3歳児）では、【ブロック・ごっこコーナー】が常に設定されている。これらのコーナーは9月～3月にかけて専用的な利用から兼用的な利用に変化している。このことから長い期間コーナーで遊んでいく中で、子どもの遊び行為は多様化していくと考えられる。

期間限定で設定されたコーナーでは専用的に利用されることが多い。【折り紙・粘土・音楽・ゲーム・課題コーナー】はいずれも専用的に利用されている。これらのコーナーは設定期間が短く、多様に遊び出すようになる前に設定されなくなったと思われる。ただし、設定期間の短いコーナーであったとしても、【編み物・家コーナー】は兼用的に利用されている。これらのコーナーの設定する時期は1月以降であり、ある程度子どもが創造的に遊べるようになっている時期であるために、期間限定で設定されていても兼用的な場所とな

表7 各コーナー・場所における行われやすい遊び行為の種類

		遊び行為の割合が 10% 以上の時がみられた回数										設定 回数	専用・兼用的 な利用の回数			
		もの作りの遊び		ものを使う遊び				場所づく りの遊び	場所を使う遊び		保育者主 体の遊び				その他	
		製作遊び	造形遊び	模倣遊び	受容遊び	象徴遊び	ゲーム遊び	構築遊び	場所遊び	運動遊び	課題遊び		専用	兼用		
コー ナー	製作コーナー	●●●●●● ●●●●●● ●○○○○○	○○○** ***** *****	***** ***** *****	○***** ***** *****	○○○○○* ***** *****	○***** ***** *****	***** ***** *****	***** ***** *****	***** ***** *****	●○○○* ***** *****	○○○○○○ ○○○** *****	18	14	4	
	ままごと コーナー	○○○** ***** *****	○○○○* ***** *****	●●●●●● ●●●●●● ●○○○○○	○○○** ***** *****	***** ***** *****	○***** ***** *****	○○○○** ***** *****	***** ***** *****	○○○** ***** *****	***** ***** *****	○○○○○○ ○○○** *****	18	13	5	
	絵本コーナー	●○○○* ***** *****	●●●○* ***** *****	●○** ***** *****	●●●●●● ○○○** *****	●○○○* ***** *****	○***** ***** *****	***** ***** *****	***** ***** *****	***** ***** *****	●○○○○* ***** *****	***** ***** *****	○○○** ***** *****	18	13	5
	ブロック コーナー	****	●○**	○***	○***	○○○*	****	****	****	○○○*	****	○○**	4	1	3	
	ごっこコーナー	*****	*****	○○○○*	*****	●●○**	*****	○*****	○○○**	*****	*****	○○○**	5	2	3	
	折り紙コーナー	●●	**	**	**	○*	**	**	**	**	**	**	2	2	0	
	粘土コーナー	○***	●●●*	●***	****	****	****	****	****	****	****	○***	4	4	0	
	音楽コーナー	*	*	*	●	*	*	*	*	*	*	*	1	1	0	
	ゲームコーナー	○○*	***	***	***	***	●●●	○**	***	***	***	***	3	3	0	
場 所	編み物コーナー	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*	1	0	1		
	家コーナー	○*	**	○*	**	○*	**	**	○*	○*	**	○○	2	0	2	
	課題コーナー	***	***	***	***	***	***	***	***	***	●●●	○○*	3	3	0	
	保育室内 その他の場所	○○○** ***** *****	○○○○** ***** *****	○○○○○* ***** *****	○○○** ***** *****	○○○○○○ ***** *****	***** ***** *****	○○○○○○ ○○○** *****	○○○** ***** *****	●●●●●● ●●●●●● ○○○○○*	***** ***** *****	○○○○○○ ○○○** *****	18	4	14	
	テラス内 その他の場所	***** ***** *****	●○○○○* ***** *****	○○○○○○ ***** *****	○○○○○* ***** *****	***** ***** *****	○○○** ***** *****	○○○** ***** *****	***** ***** *****	●●○○○○ ○○○○○○ ○○○**	***** ***** *****	○○○○○○ ○○○** *****	18	11	7	

●●●○*

各コーナーのセル内「●」、「○」、「*」は、調査期間内に全園で設定された回数を示す。
この内「●」、「○」、「*」は遊び行為がみられた割合である。
「●」：各コーナー・場所における遊び行為割合が60%以上の回
「○」：各コーナー・場所における遊び行為割合が10% ≤ x < 60%の回

「*」：コーナー設定されたが遊び行為がほとんどみられなかった回
この凡例の場合、全18日の調査でコーナーが18日設定されており、この内の4回だけ遊び行為がみられたことを示す。

ったと考えられる。

コーナー以外の場所は、ほとんどの調査日で兼用的な利用、または「運動遊び」の専用的な利用のいずれかとなっている。コーナー設定がされていないことで、じっくりと取り組む静的な遊び行為は定着しにくく、闊いごっこやかけっこのような「運動遊び」が主に行われていると考えられる。

以上、常に設定されているコーナーでは専用的な利用から兼用的な利用へ徐々に変化することが読みとれ、長い期間コーナーで遊んでいく中で子どもの遊び行為は多様化していくと思われる。また、期間限定で設定されているコーナーは、時期にもよるが、専用的な利用がされることが多い。

4-5 コーナーと遊び行為との関係

分類した 11 種類の遊び行為がどのコーナーで行われやすいか考察する（表 7）。

「製作遊び」・「造形遊び」は【製作・絵本・折り紙・粘土コーナー】で行われることが多い。特に、【製作コーナー】では「製作遊び」との関係が強く、全調査日で「製作遊び」が行われており、行為割合が 60% 以上となる日も多い。同様に、「模倣遊び」は【ままごと・ごっこコーナー】と、「受容遊び」は【絵本・音楽コーナー】と、「象徴遊び」は【絵本・ごっこコーナー】と、「ゲーム遊び」は【ゲームコーナー】との関係が強いと言える。

「構築遊び」は【ままごとコーナー】、【保育室内のその他の場所】で行われることが多い。これは子どもがコーナーを新しくつくる、コーナーをつくり変える遊び行為である。この子どもによるコーナーづくりは、ある特定の場所で行うことが多いことが分かる。

「場所遊び」、「運動遊び」は、各コーナーでも見られなくはないが、主にコーナー以外の場所で行うことが多い。「運動遊び」は広い場所を必要とするため、コーナーでは見られにくい遊び行為と言える。

最後に、保育者が主体となる「課題遊び」は、【製作コーナー】で行うか、新しく【課題コーナー】が設定され行われている。

5. 行為分布からみる遊び行為の時期的な変化

子どもの遊び行為の時期的な変化を明らかにするため、保育室・テラスでの行為分布から、各月の行為の状況を読み取る（表 8、図 1）。

(1) 年齢に伴う遊び行為の分布の広がり

3 歳児では各コーナーに様に分布が見られる。しかし、年齢が上がると共に比較的製作コーナーに分布が集中する。また他のコーナーでの遊び行為が少なくなると共にコーナー以外の場所での遊び行為が活発になっていく。コーナー以外の場所では主に積み木付近や中央の広く空いた場所での遊び行為がよく見られる。特に積み木付近の場所では、子どもが積み木などを使って場所をつくって遊ぶことが見られ、年齢が上がると共によく行わ

表 8 遊び行為の時期的変化

各月の保育室の構成	
うさぎ組	【製作・ままごと・絵本コーナー】が常設。他に 5 コーナーが一時的に設定され、月毎で保育室の構成は異なる。コーナーの種類は調査対象中最も多い。3 歳児のため、様々な遊び行為に興味を持ってもらうためと思われる。コーナーは、各月ともに入口から中央を広く空けるように配置されている。
ちゅうりっぷ組	【製作・ブロック・ままごと・ごっこ・絵本コーナー】の 5 コーナーが常設。3 歳児保育室であるため多く設定されている。9～3 月にかけてほとんど構成は変わらない。9 月にテラスでお絵描きの課題コーナーが設定されただけである。これは自閉症の子どもがいたことが影響している。子どもによっては構成の変化で全く別の保育室だと勘違いし気持ちが不安定になる恐れがある。
たんぽぽ組	【製作・ままごと・絵本コーナー】が常設。9 月には【粘土・ごっこコーナー】、他多くのコーナーみられる。9 月以降、子どもたちはコーナー以外の場所でも遊び出すようになったため、これらのコーナーは設定されていない。1 月には冬の遊びとして【編み物コーナー】が新たに設定されている。またこの保育室では【製作コーナー】が中央に広く設定される傾向が見られる。
うめ組	【製作・ままごと・絵本コーナー】が常設。さらに【ゲームコーナー】が 12 月に、【課題コーナー】が 9・12 月に新たに設定されている。設定されたコーナーの種類は全保育室の中で最も少なく、5 歳児の保育室ではあまりコーナーを設定せずに子どもたちが自分たちで工夫して遊ぶようにしていると思われる。

行為分布の時期的な変化

うさぎ組	遊び行為は各コーナーに様に分布する。特に【製作・ままごとコーナー】は他のコーナーに比べて、比較的好く行為が分布する。コーナー以外の場所では積み木付近の場所や中央付近の場所に遊び行為が分布する。子どもたちが積み木を使って場所をつくる「構築遊び」が見られる 10～12、3 月に、特に積み木付近の場所では遊び行為がよく見られる。
ちゅうりっぷ組	遊び行為は【製作・ブロックコーナー】を中心に分布し、9～3 月にかけて次第に他のコーナーやコーナー以外の場所に広がっていく。【製作・ままごとコーナー】は全調査日で専用的な場所となるが、【ブロック・ごっこコーナー】は 9～3 月にかけて専用的から兼用的な場所へと変化する。1、3 月になるとコーナー以外の場所ですや積み木で場所をつくることが多く見られる。
たんぽぽ組	遊び行為の分布は、【製作コーナー】に集中している。各コーナー、コーナー以外の場所にも分布がみられ、いろいろな所に遊び行為が行われていることが分かる。子どもたちが積み木を使って場所をつくることはあまり行われていないが、【ままごとコーナー】の横で場所をつくることでコーナーを広げて遊んでいることが見られた。
うめ組	遊び行為は、各コーナーに分布しているが、特にコーナー以外の場所での遊び行為の多さが特徴的である。積み木などで場所を作ることが頻繁に行われ、コーナーが少なくても自分たちで工夫して遊んでいる。【製作コーナー】は常に遊び行為が多い。【ゲーム・課題コーナー】が設定された日にはそのコーナーでも遊び行為が多い。【製作・ゲーム・課題コーナー】は専用的な場所となっているが、【ままごと・絵本コーナー】は日によって兼用的な場所となることもある。

各コーナーにおける遊び方の時期的な変化（例 うさぎ組）

製作コーナー	【製作遊び】が多く、3/6 回は兼用的な利用となる。12・2 月は雪だるまや劇のお面の製作という「課題遊び」を行っていたためである。そのため「課題遊び」が行われる日は「製作遊び」と「課題遊び」の兼用的な利用となる。11 月は、ある男の子が長時間 1 人で遊ぶ利用となっていた。
折り紙コーナー	11・2 月に設定され、いずれも「製作遊び」の専用的な利用となる。女の子は折り紙でよく遊んでいたが、まだ 1 人だけでは上手に折ることができないため保育者に手伝ってもらうことが多かった。そこで保育者と女の子たちがずっと遊ぶことができるように【折り紙コーナー】が【製作コーナー】とは別にコーナーとして設定された。
粘土コーナー	10～12 月に机だけが置かれて設定される。10・11 月は粘土遊びを行う子が多く「造形遊び」の専用的な利用となる。【製作コーナー】に近い場所に机が置かれていたことから、11 月には「製作遊び」も行われている。12 月には【ままごとコーナー】の近くに設定されたが、ほとんど遊び行為が行われなくなったため、ままごとコーナー内に置かれコーナーとして設定されなくなった。
ままごとコーナー	常に設定され、概ね「模倣遊び」の専用的な利用となる。年齢が低いこともあり、ままごとを中心とする「模倣遊び」がよく見られた。3 月には兼用的な利用となるが、【家コーナー】と行き来しながら子どもたちが好きなようにコーナーの設えをアレンジして遊んでいた。単にままごとをするという遊び方よりも、より工夫して遊ぶようになっていく。12 月にはブロックを持ち込んで「造形遊び」、2 月には製作材料を持ち込んで「製作遊び」が見られた。他コーナーから遊具を持ち込み遊ぶことから、3 歳児にはこのコーナーが思い入れの強い場所となっていると思われる。
家コーナー	劇に使用する大道具を利用して 2～3 月に設定されており、兼用的な利用となる。特に遊具は置かれず子どもたちが好きなように遊べるようにされ、大きな段ボールで作られたこの家は子どもが中に入っても十分に隠れられるようなものであった。闊いごっこをしている男の子たちが基地として使ったり、女の子が遊具を持ち込んでままごとをしたりするなど、日によって様々な遊び行為が見られた。特定の遊具が置いてないこと、隠れ家のような設えであったことにより兼用的な利用になったと思われる。
絵本コーナー	常に設定されており、複数の遊び行為の専用的な利用となる。絵本と一緒にブロックも置いてあるため、ブロックを使った「造形遊び」の専用的な利用になることが最も多い（10・11・1 月）。また、【折り紙コーナー】が設定されていない 12・1 月には、折り紙で遊ぶことが多く見られ、「製作遊び」の専用的な利用となる。3 歳児は絵本をまだ 1 人で読むことが難しいこともあり、11 月に少し見られる程度であった。そのため【絵本コーナー】は他の遊びのための場所として利用されることが多い。
音楽コーナー	11 月に一度だけ設定された。音楽を聞くことが好きな男の子のために特別に設定されたこともあり、音楽を聴くなど「受容遊び」の専用的な利用となる。その子を中心に、何人かの子がイスに座ってラジカセで音楽を聴いて歌を歌っていた。
ゲームコーナー	1・3 月に設定されており、いずれも「ゲーム遊び」の専用的な利用となる。1 月はお正月に関連したゲーム、3 月は保育者が作った魚釣りゲームが置いてある。子どもたちにとってこれらのゲームが珍しかったこともあり「ゲーム遊び」が多く見られた。「製作遊び」も少し見られるが、これは【製作コーナー】と【ゲームコーナー】が同じ机の設えで隣接して設定されていたため、【製作コーナー】での「製作遊び」が【ゲームコーナー】に広がったと思われる。
コーナー以外の場所	特によく見られている場所は大型積み木付近の場所と中央付近の場所であった。積み木付近の場所では、子どもたちが積み木を使って遊ぶ場所をつくる「構築遊び」を行い、その場所ですごことがあった。11 月ではそのような広く空けられた場所がなかったため、ほとんど【ままごとコーナー】の隣にもう一つの部屋をつくることを楽しむことが見られた。このように積み木の置き場所によってはコーナーと関連した遊び方が見られることもある。中央付近の場所では「運動遊び」が行われている。11 月ではそのような広く空けられた場所がなかったため、ほとんど「運動遊び」が行われることはなかった。テラスでは「運動遊び」がよく行われるが、10・11 月ではテラスに敷物を敷いてピクニックごっことして「模倣遊び」も見られた。コーナー以外の場所では、子どもたちが場所をつくる「構築遊び」や動き回って遊ぶ「運動遊び」を行うための場所となっている。

図1 遊び行為の分布

れている。つまり年齢段階と共に、遊び行為はコーナー中心から徐々に保育室全体へ広がっていく、コーナーで遊ぶことから自分たちで場所をつくって遊ぶようになっていく、と言える。

(2) 子どもたちによるコーナーづくり（固定・可変的な利用）

コーナー以外の場所では、子どもたちが積み木やついたてなどを使って遊び場所をつくることが見られる。また【ままごとコーナー】では子どもが家具を動かしたり、隣に場所をもう一つつくることで、コーナーを広げていることも見られる。これらは子どもがコーナーをつくる／つくり変えることであり、コーナーや場所を可変的に利用しているとみなすことができる。これに対し、保育者が設定したコーナーをそのままの形で利用することを固定的な利用と言える。

保育室には予め保育者がコーナーを設定しているが、遊び行為の状況によっては、子どもがコーナー・場所を可変的に利用することで、コーナーからコーナー以外の場所へ遊び行為が広がっていく。この子どもによるコーナーづくりは、1年間の後半の時期になるほど、また年齢が高くなるほど見られる。つまり、始めは固定的に設定されたコーナーで遊んでいくが、次第に可変的に自分たちの遊び行為のためにコーナーをつくるようになってくると思われる。このことは、始めから子どもが何もない場所でコーナーづくりを行うというよりは、コーナーがあることで、子どもによるコーナーづくりが促進されたのではないかとと思われる。

(3) 年齢によってよく見られる遊び行為の相違

各年齢ではそれぞれ特徴的な遊び行為が見られている。各年齢で共通して多い遊び行為は「製作遊び」である。お絵描きや空き箱を加工してあるものをつくる「製作遊び」は、その内容も幅広く見られ常によく見られる遊び行為となっている。

3歳児で特徴的な遊び行為はままごとなどの「模倣遊び」やブロックや粘土などの「造形遊び」、ミニカーなどの「象徴遊び」である。より単純な家庭でもよく見られる遊び行為が行われていると言える。

4歳児でも同様に「模倣遊び」や「造形遊び」などはよく見られている。その他4歳児になると1人で字を読むことができるようになるため、絵本を読む「受容遊び」がよく見られるようになってくる。

5歳児では「製作遊び」がより顕著に見られるようになってくる。年齢が上がると共に道具の扱い方も上手くなることで、より工夫した製作が行えるようになっていく。「製作遊び」にかかる時間も長く、そして集中して取り組むようになる。

6. コーナーが兼用化する要因

コーナーの利用を遊び行為の割合から捉えていくと、コーナーは特定の遊び行為が行われやすい専用の利用、いろいろな遊び行為が行われやすい兼用的な利用に分けられる。もともと【製作コーナー】は「製作遊び」のための場所というように、コーナーは特定の遊び行為のために設定されている。そのため実際の保育室の遊び行為を見ても、コーナーは特定の遊び行為によって専用的に利用されることが多い。しかし、特定の遊び行為の場所として設定されたコーナーが、時期的変化に伴って、いろいろな遊び行為が行われる兼用的な利用が見られるようになる。まとめると、コーナーが兼用化される要因には主に4つの要因が挙げられる。

(1) コーナーの設えに伴う兼用化

コーナーの設えによっては兼用的な場所となりやすくなることが

ある。主にコーナー間の仕切りがないこと、同じような設えが隣接していること、子どもが設えを変えやすいことが見られるコーナーは兼用的な場所になりやすい。

(2) コーナーを設定する時期に伴う兼用化

コーナーが長い期間設定されていることで、次第に専用的な場所から兼用的な場所と変わっていくことが見られる。【ままごとコーナー】や【絵本コーナー】は各保育室で常に設定されていたが、徐々に兼用的な場所となることが見られた。これは長期間コーナーが設定されることで、子どもがコーナーでの遊び行為に慣れ、新しい遊び方を行ったり、遊び行為を広げていくようになるためと思われる。

(3) 課題遊びに伴う兼用化

保育者が主体となって「課題遊び」を行う場合、【製作コーナー】を利用することがある。その結果、【製作コーナー】は「製作遊び」と「課題遊び」の両方が行われることとなり、兼用的な場所となる。つまり、この場合は保育者がもともと兼用的な場所として使うことを想定していると言える。「課題遊び」の影響による兼用化を避けるために、新しく【課題コーナー】を設定することも見られている。

(4) 個人の抱り所の場所となるに伴う兼用化

最後の要因は個人の抱り所の場所となっているためである。ちゅうりっぷ組(3歳児)では自閉症の子どものために絵本コーナーが長期間設えられていた。そこでは遊び行為のための場所というよりは、個人ののための場所となっている。その子が長時間そこに滞在しているいろいろな遊び行為を行うことで兼用的な場所となっていることが見られる。

7. まとめと今後の課題

本報で得られた知見を以下にまとめる。

(1) コーナーで行われやすい遊び行為

各年齢に共通して見られる遊び行為は「製作遊び」であり、最も行われる遊び行為でもあった。年齢別にみると、3歳児では「ままごと遊び」、5歳児では「構築遊び・運動遊び」が多く見られた。年齢の段階によって特徴的な遊び行為がある。コーナー・場所によって、それぞれ行われやすい遊び行為が異なっている。全体的な傾向として、各コーナーで、それぞれコーナーの名称となる遊び行為（例えば、製作コーナーであれば製作遊び）が、よく行われている。

(2) コーナーの専用・兼用的な利用

ほとんどのコーナーは特定の遊び行為の専用的な場所となる。よってコーナー設定により、保育室の中でそれぞれの遊び行為の場所がしっかりと確保され得る。コーナーが長期間設定されることにより、専用的な利用から徐々に兼用的な利用へ変化していく。長い期間利用する中で、コーナーでの遊び行為は多様化していく。さらにコーナーの設え方は、コーナーの兼用的な利用に影響を及ぼす。

(3) コーナーの固定・可変的な利用

はじめ、遊び行為の分布は各コーナーに集中している。しかし、次第にコーナー以外の場所にも遊び行為の分布が広がっていく。この傾向は各年齢で共通して見られるが、特に年齢が高いほど、コーナー以外の場所へ広がる時期が早い。そしてコーナー以外の場所では、子ども自身がコーナーをつくることにより、コーナーは可変的に利用されている。これは、保育者に設定された固定的なコーナーの利用経験から、子どもだけで徐々に可変的にいろいろなコーナー

をつくり出せるようになったのではないと思われる。

一方、子どもの遊び行為を観察する中で、遊び行為が広がっていく様子や、子どもが複数のコーナーを使い分けて遊ぶ姿も見られた。遊びのつながりを含めた検討が今後の課題として挙げられる。

参考文献

- 1) 無藤隆・倉持清美・柴坂寿子他：園環境は子どもにとってどのような意味を持つか，日本保育学会保育学研究 第31巻，pp.113-122，1993
- 2) 北浦かほる・萩原美智子：保育環境としての遊び空間のあり方ー夜間保育所の保育環境整備に向けて（1）ー，日本建築学会計画系論文集 第563号，pp.139-146，2003.1
- 3) 北浦かほる・木下千絵・萩原美智子他：保育環境としての子どもの生活空間の検討ー夜間保育所の保育環境整備に向けて（2）ー，日本建築学会計画系論文集 第568号，pp.33-40，2003.6
- 4) 北浦かほる・木下恵津子：夜間保育所の設置形態による建築計画の実態と平面の類型化ー夜間保育所の保育環境整備に向けて（3）ー，日本建築学会計画系論文集 第575号，pp.37-45，2004.1
- 5) 井本佐保里・定行まり子・小池孝子：保育空間のセッティングと子どもの行為に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊，pp.459-460，2005.9

- 6) 山田恵美・佐藤将之・山田あすか：自由遊びにおける園児の活動規模と遊びの種類およびコーナーの型に関する研究，日本建築学会計画系論文集 第74巻 第637号，pp.549-557，2009.3
- 7) 細谷俊子・積田洋・青木健三：異年齢保育における保育室の空間構成と室内遊びでの異年齢交流の実態の研究，日本建築学会計画系論文集 第73巻 第634号，pp.2565-2572，2008.12
- 8) 西本雅人・今井正次・木下誠一：保育プログラムに伴うコーナー設定の一年間の変化 保育者による空間設定からみる保育計画に関する研究，日本建築学会計画系論文集 第601号，pp.47-55，2006.3
- 9) 森上史郎・大豆生田啓友・渡辺英則：保育内容総論 新・保育講座4，ミネルヴァ書房，2001
- 10) ロジェ・カイヨワ：遊びと人間，講談社，1990.4
- 11) 片山忠次・名須川知子：生活保育の創造，法律文化社，1998
- 12) 仙田満：こどものあそび環境，筑摩書房，1984

注

- 注1) 保育所は児童福祉法で定義された用語であるが、幼稚園と対をなす用語として便宜上「保育園」と称する。
- 注2) 「コーナー設定」はある特定の活動のために家具などで設えられた小さな場所を形づくることを示す。
- 注3) 保育の現場では「課題遊び」というとやらせのように受け取られるため、この用語は用いられていない。

（2013年1月10日原稿受理，2013年3月15日採用決定）